

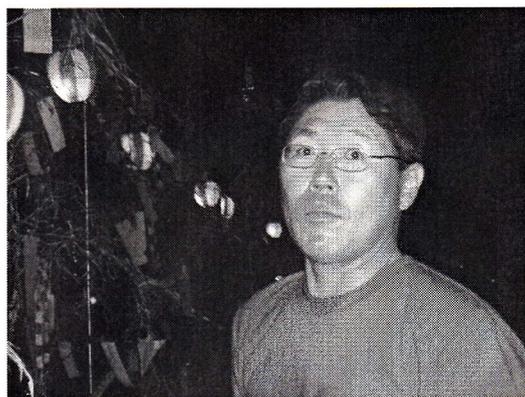
長きにわたり、中条訪問団の添乗をしていただいている上原新町の南雲正浩さんより、今回お願いをして会報へ寄稿いただきました。

第十二回山手地区訪問を終えて

添乗員 南雲 正浩

7月26日早朝、保護者と一緒に訪問児童がまだ静かな十日町駅に集まってきました。その子供達の顔は不安なのか寝不足なのか表情薄い子もいれば、これからが楽しみで声が弾んでいる子など、メンバーが代わっても山手訪問の子供達が毎年見せてくれる表情でした。

飛行機が当り前の時代に、7時間半余り電車で移動することは将来においても数少ない体験でしょうし、岡山と新潟の距離を体感できる大切なものだと思います。またその離れた地で来訪を心待ちにしていたこれからの友達、篤い山手の方々の毎年心温まる歓迎に感謝しながら3日間の交流を過ごさせていただきました。星名実行委員長が前から言われていた「背伸びをしない普段着の交流」何気なく思っていたが、今回の来訪者に無理を感じさせない歓迎が居心地の良いものでした。



<夏まつり山手にて>

半年後、中条に迎える時も熱烈でありながら居心地の良い歓迎ができる様、手伝わせていただきます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

毎年「縁の下の力持ち」をしていたいただいている南雲さんですが、今年は特に、危機一髪の状態をしのぎながら中条訪問団を無事に十日町まで添乗して頂きました。詳しくは文集虹のかけはしにて…。



<帰りの電車に乗り継ぐ模様>